

日本コミュニティ心理学会第10回研究委員会企画教育講演

7月1日 日曜日 15時40分-17時10分

## 『コミュニティワークに学ぼう』

演者： 武田信子（武蔵大学）

企画・司会： 吉武清實（東北大学）

### 講演要旨

かつて、カナダ北部のある村で青年の自殺が相次ぎました。近代的な文化の流入で、ネイティブの文化が崩壊させられ、アルコールや酒におぼれ金銭に振り回されていく大人たちを見ながら育った青年たちが、自分たちの将来に悲観し、連鎖的に自殺が続いたのです。

そこに一人の白人コミュニティワーカーが呼ばれ、この現象への対応を求められました。彼は、ネイティブの住民の中に入っていく、リーダーたちが自ら村の改革に乗り出すことができるよう、支援をしていきました。村全体での1ヵ月の断酒が実現し、自信を取り戻した村人たち。次第に村に活気が戻り、青年たちが自分たちの村を誇りに思えるようになったとき、もはや自殺はなくなっていました。

コミュニティワーカーは青年たちに、精神医学的アプローチや心理カウンセリングをしたのではありません。そのコミュニティに隠れて存在している根本的課題を探り、その課題に対して、コミュニティ全体が取り組むことができるように、コミュニティのリーダーたちをエンパワーして、彼ら自身による解決をサポートしたのです。問題が解決する頃には、コミュニティは成熟し、ワーカーは静かに村を去りました。もはやワーカーの必要のないコミュニティができていました。

世界各地でこのようなコミュニティの変革に取り組んできたこのワーカーの名前はビル・リー。カナダのマクマスター大学などで、コミュニティワーカー養成に取り組んでおられます。2005年12月に来日し、コミュニティ心理学会研修会でも講師をつとめて下さいました。好評を得たこのワークショップでしたが、いかんせん時間が短かった…。

そこで、コミュニティワークの発想や手法をあらためて広く学会員に紹介し、学びのきっかけを作ろうとこの講演が企画されました。講師は、前回リー氏を日本に招聘した武田が務めます。コミュニティ心理学が、コミュニティワークから何を学べるか？学問の枠を少し超えて、学会員一人一人が社会に対してできることを考える具体的な機会にしたいと思います。

(武田信子)

Lee, B. (1999) *Pragmatics of community organization*. 3<sup>rd</sup> Edition. CommonAct Press, Toronto. (『実践コミュニティワーク』武田信子・五味幸子訳学文社 2005)

Lee, B. and Balkwill M. (1993) *Participatory planning for action*. CommonAct Press: Toronto. (『実践コミュニティワーク エクササイズ編』武田信子・五味幸子訳学文社 2005)